

やない 広報

10.8
2020
No.333



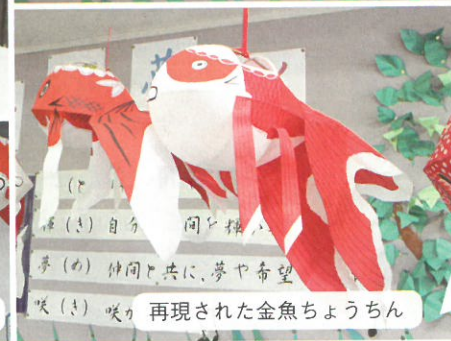
北前船で伝来したとされる
弘前の金魚ねぶた(現在の形)



戦前の金魚ちょうちん(実物)



現在の金魚ちょうちん



再現された金魚ちょうちん

戦前の金魚ちょうちん再現プロジェクト ～再現金魚ちょうちん製作体験学習～

(9/28・柳井中学校)



しらかべ ポリスニュース

柳井警察署 ☎0110



狩猟に伴う事故防止

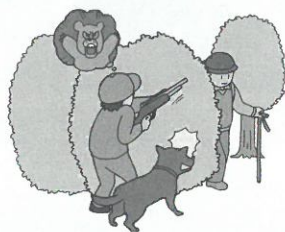
狩猟期間は11月1日から令和3年3月31日までの間です。この期間中、多くのハンターが山間部を中心に猟銃を使用して狩猟を行っています。

■ハイキングや山仕事などで 山中に入る人へのお願い

- ハンターから獲物と見間違われないう、赤や黄色など目立つ色の服装で出掛けましょう。
- 鈴や携帯ラジオなど、音が出るものを携帯しましょう。これはハンターに自分の存在を知らせることができるほか、クマ除けの効果もあります。

■ハンターへのお願い

- 猟銃を発射する際は、獲物だけに気を取られず、周囲の安全を十分に確認してください。
- 「ガサガサ」という物音だけで獲物と思い込んで発射することは絶対に避け、獲物であることを目で確実に確認してください。
- 実包の装填は発射の直前までしないでください。
- 銃から絶対に目を離さず、確実に管理してください。



表紙写真の説明



柳井広域シルバー人材センターと市教育委員会の共催でおこなわれた「再現金魚ちょうちん製作体験教室」の様子です。

江戸時代末期に津軽弘前（現在の青森県弘前市）から伝わった「金魚ねふた」にルーツを持つ「金魚ちょうちん」。わずかに現存する約100年前の金魚ちょうちんも劣化が激しく、このたび同センター金魚ちょうちん班の本井秀夫班長（集合写真最前列中央）が再現に取り

組みました。

この再現金魚ちょうちんを後世に継承するため、同センターが毎年郷土を題材に電子紙芝居を制作している柳井中学校美術部に依頼し、教室が実現。3年生部員が模様描きやヒレの貼付けなどを体験しました。

同部はこの体験などをもとに電子紙芝居を制作する予定で、作品は文化祭で発表された後、しらかべ学遊館で常時放映される予定です。

新刊情報 図書館だより

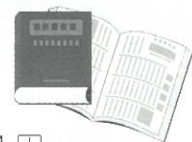
柳井図書館 ☎0628

大島図書館 ☎02226

■休館日：毎週月曜日

柳井図書館／祝日の翌日、10/31 日

大島図書館／祝日



新刊図書の一部をご紹介します。

■一般書(柳井図書館)

首里の馬	高山羽根子
三世代探偵団〔3〕	赤川 次郎
江戸のおんな大工	泉 ゆたか
わたしの美しい庭	凧良 ゆう
純喫茶パオン	榎月美智子
殺人現場は雲の上	東野 圭吾
漱石先生	寺田 寅彦
江戸川乱歩語辞典	奈落 一騎
ばあやのお話	金子みすゞ
宮沢賢治の地学読本	宮沢 賢治
漫画「瀨祭」の挑戦	弘兼 憲史
目でみる数字	岡部 敬史

■一般書(大島図書館)

偽りの君と、十四日間の恋をした	櫻 いいよ
そこに無い家に呼ばれる	三津田信三
ミライヲウム	水沢 秋生
生き物が大人になるまで	稲垣 栄洋
てのひらのあいさつ	ジェイソン・プラット

■児童書(柳井図書館)

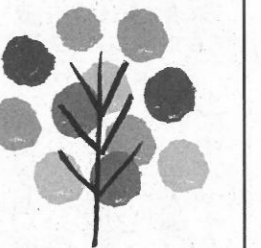
わたしのふうせん	マリオ・ラモ
どこどこかわいい	たなかしん
ひょうたんとかえる	殿内 真帆
友だちってなんだろう？	齋藤 孝
にゃんたる刑事	カワダクニコ

差し出せば 受け取る手がある 君の手を

柳井日日新聞

発行所 柳井市金屋区 436 〒742-0022
株柳井日日新聞社
編集発行人 友座 泰
電話 0820-22-0758
FAX 0820-22-2775

購読料 1ヶ月 1,512円
(郵送 1,620円)
振替口座 01550-3-005438
《火・木・土曜日発行》



山口のあわせの真ん中に、
菓子乃季
—KASHINOKI—

柳井市柳井5275
Phone(0820)22-0757

柳井市人口・世帯数
(9月末現在)

●世帯数 15,574(+1)
●人口 31,202人
●男性 14,584人
●女性 16,618人
(前月比 -37人)
●外国人 190人

100年前の金魚複製、継承へ

製作体験会に柳井中美術部が協力

戦前の金魚再現プロジェクト
名人が6体手がけ、展示保存用に



柳井広域シルバー人材センターと柳井市教委が、今年4月から始動している「戦前の金魚ちようちん再現プロジェクト」の新型コロナウイルスに打ち勝って金魚ちようちんを盛り上げよう。このプロジェクトに、柳井市立柳井中学校(中本校長、554人)の美術部生徒が協力し、9月28日、現存する約100年前の金魚ちようちんを複製する体験会が行われた。



寄稿 本心に恐ろしい ハラスメントとは?

柳井市のひとり

セクハラやパワハラが、個人的になら事情の問題は、非常に憂慮すべきことだと考えます。更に、セクハラ、パワハラ問題そのものより、その事実を隠蔽しようとする自己保身組織の深い闇こそ、課題があると感じます。これまでの柳井日日新聞の記事を見る限り、8月の柳井市の広報から、たつた一行の懲罰の記事を日日新聞の記者が見つけた。質問したが、その会見場では拒否された。③定年延長の総務部長

が、個人的になら事情を話せると詳細を話した。そのパワハラセクハラ問題は、2019年4月のことだった。本年8月の柳井市の広報に載る。1年4カ月前、市議会でも、新聞を読んだ市議が質問したが、答えは、うやむや。時、間外、公表しないといながら、人事院規則の事例に基づき、コソツと処罰(笑)。市役所に、就業規則や懲罰規程がないことには、びつくり。

が、サポートする市の管理職の無力さではありません。くれぐれも、私を知る限りの市役所職員さん達は、決して無能ではありません。非常に優しく、有能。では、サポートを拒絶する市長の傲慢でしょうか? 優しく、あなたに被害を与えた管理職の●●さんは、深く反省していらっしゃるんです。●●さんには、大切な家族がいるんです。

井原市長さんは、トップとして、絶対にしてはならないことを、してはいらつしやらないでしょうか? 次期4年、本当に、大丈夫ですか?

赤い羽根共同募金を

柳井市 感染対策して街頭募金活動



「赤い羽根共同募金 3月31日」の活動の一環として、柳井市共同

金魚ちようちんは今や柳井市を代表する郷土民芸品として知られているが、その起源は江戸時代末期で、津軽弘前(青森県)の「金魚ねぶた」が、約200年前に北前船に乗って柳井に伝来し、子供の玩具として、作られたのが始まりとされ、長い年月をかけて少しずつ姿を変えながら、現在のスタイルになっている。

そこで、同センターが、金魚ちようちんの歴史や経緯を後世に継承しようと、市が所有する約100年前の作品が2体しかないことから、市と連携協力を図り、復元計画を立て、今年4月から、依頼を受けた同センター1金魚ちようちん班班長の本井秀夫さん(77・平生町宇佐木)が製作に着手。

金魚職人で知られる本井さんは、現存品の大きさや和紙に描かれている模様を正確に測るなど、試行錯誤の末、約半年の歳月を費やして100年前の金魚ちようちん6体を複製させた。

そして、同センターでは、再現プロジェクトの一環として、この複製金魚を使った電子紙芝居を文化祭で放映する柳井中美術部と連携。本井さんが手がけた6体のうち、未完成の2体を使った体験会を同校で実施した。

この日は美術部(三澤彩乃部長、41人の2・3年生12人が、胴体としっぽ、ひれにうろこ模様を描き、のり付けする作業を行った。指導に当たった本井さんは「今の金魚は、口も丸く、とてもかわい顔や形のしているが、100年前は口やあごなどの形は大きさが違う」とし、「当時の模様は、8ミリ間隔で、それをどのように描くかを考えた際、竹ひごがびつたりだった。竹ひごをものさしにするので、当時の金魚が再現できた。生徒たちには、自分たちが製作したことを後世に伝えてほしい」と笑顔をこぼす。

体験会後、完成品1体の寄贈を受けた三澤部長(15・3年)は「このプロジェクトに参加できて光栄。学んだことを電子紙芝居で生かすとともに、この経験を多くの人たちに伝えていきたい」と話していた。

同センターでは、複製品柳井中への寄贈以外の5体を、しらかへ学遊館や町並み資料館、観光協会に贈り、残り3体は永久保存用と学習用としており、センターの行村敏彦理事長は「新型コロナウイルスの影響で金魚ちようちん祭りが中止となり、センターで手がけていた金魚製作がなくなる中、100年前の金魚を再現できたことをうれしく思う。今後、後世に継承するために役立ててほしい」と期待を寄せていた。

なお、柳井中美術部では、この復元金魚などを活用した電子紙芝居「Kプロジェクト 紅の絆」を10月23日開催の学校文化祭(非公開)で放映する。また、例年は柳井まつりでも放映していたが、新型コロナウイルスで中止となったことを受け、12月に白壁通りのしらかへ学遊館で一般公開として放映する予定。

(写真は製作体験会に参加した柳井中美術部の生徒たち。下は中学生に100年前の金魚ちようちん複製を指導する本井さん(中央))

募金委員会(会長 井原健太郎市長、17人は運動初日の1日、市内南町のゆめタウン柳井店で、街頭募金活動を実施した。

この日は、運営委員ら13人が参加する中、井原市長は「来店者に對し、笑顔で接してこの運動を呼びかけてほしい」とあいさつ。

この後、新型コロナウイルス感染症防止対策として、マスクとフェイスシールドを着用した上で、店の出入口3カ所募金活動を開始。「赤い羽根共同募金にご協力を」と訴えながら、運動を呼びかける啓発用品を来店者に手渡していた。

今後、同委員会では、